

---

# 春がきた

朋次郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

春がきた

### 【Zコード】

N3054Q

### 【作者名】

朋次郎

### 【あらすじ】

別れをテーマに・・。

5歳の息子、ヒロの余命があと1か月をきつたころ、佐和子はある著名な緩和ケアの専門病院に入れた。

それも最上階の最高級の個室。田舎の山の4階建て、まわりの景色が綺麗。富士と言われる100名山にも入る山を目前に。季節は3月。桜のつぼみがほころびかける。

この桜が咲くと、私のヒロは・・・。佐和子はそういうことはもう考えたくなかつた。病氣のことではもう考えたくなかつた。

ヒロはもう最終段階に来ている。5歳の子でも余命のことはわかつていいようだが決して口にはしない。だがここに来てもう苦しい治療はしなくてもよい、というのがわかるだけだ。うつらうつらと寝ていることが多い。だが5分でも目を開けていると外を見たがる。だからヒロのベッドは窓際ぎりぎりによせさせてもらつている。部屋は広くソファベッドが1つ(つきそいが寝れるようになつていて)テーブル1つ。シャワートイレに湯船のあるお風呂。趣味の良い絵画もかけてある。もつともこれはヒロの希望で自分が描いた恐竜の絵に替えた、というよりその絵画の上に画用紙をセロテープで貼りつけてある。

ここは緩和ケアで著名な医師がいて佐和子は絶大な信頼をおいていた。事実入院してもう3週間もたつたがヒロは痛いとは一言もない。

1年間うけた化学療法のせいで髪は抜け皮膚が荒れ口内炎でろくにごはんも食べられない状況だったが驚いたことに入院3日目でいちごを欲しがり4個も食べたのである。そして少しずつだが食欲も戻り昨日はヨーグルトを2つとチーズも食べててくれた。夕食のグラタンも半分食べててくれてうれしかつた。ここ数カ月は固形食は食べられず大好きなゼリー・やヨーグルトもいらないという始末だったので食べ物の味がわかりかつおいしいというヒロに佐和子は狂喜した。

そして経済的には無理というか無茶をしてでもこの病院に入れてよかつたと心から思った。

薬はもうない。注射もない。この1年24時間ずっと点滴の細長いひもがくつついていた状況だったので本人のみならず佐和子の解放感もすごかつた。痛み止めは口からは飲む分もなく、パッチといつて小さな湿布薬みたいなものを張りつけるだけだ。

毎日医師の巡回診察があり、看護婦の訪室も頻繁にある。希望すれば牧師もお坊さんもきててくれる。ボランティアも控えていて希望すれば買物も話し相手もしてくれるという。だがそういうオプションは佐和子は頼まず自分ひとりでヒロの最後を見取りたかった。

佐和子が中学生のころ、母ががんの末期に亡くなつたとき、その苦しみぶり、痛い痛いとうめきながら苦しんでいる様子を見知つていただけに医学の特に緩和ケアという進歩に眼を見張つた。

あと1ヶ月ももてばいいほつでしょ。と以前の病院の医師はいつた。ちゃんとこちらの心情を理解しながらまたこちらが納得するまで根気よく説明に応じてくれる良い医師だったが、親の纖細な感情まではここにはこゝなるでしょ、とかまでは説明はしない。佐和子はここまでくるに、どれだけ親として苦しんだかまたヒロも幼い心でどれだけ苦しんだか誰にもわからないだろうと思つ。

だが事態はもうそこまでできている。ヒロといられるのもあとわずか。

幸いヒロはずっと寝ている状態ではないし、意識もある。佐和子はヒロがずっと眠る・・つまり永眠するまで家には帰らない覚悟だつた。ヒロには兄弟はない、父親もいない。佐和子の夫というより彼は内縁関係だったのでヒロを妊娠したとわかると佐和子に子供を下ろすようにと指示してお金渡した。要は佐和子を捨てたのだ。

そんな話はもういい。この個室は1泊2万6000円もするがそんな経済的な事も後回しだ。要はヒロとゆっくり過ごしたい。ヒロはまだ小さくて彼女もない。ヒロはまだ母親を欲していて私の姿

が少しでも見えないと「おかあさーん」と呼ぶ。ある意味これでよかつたと思うのは親のヒロか。まだ幼いまま、かわいらしい男の子のままヒロは逝こうとしている。佐和子はヒロの顔をじっと見つめる。目をこらして見つめる。

佐和子はヒロが薄眼を開けたのに気付く、「起きたの?」と声をかける。ヒロが軽くうなづいたので「何か食べる?」ときた。「ヨーグルトのキャラメルある?」「あるわよ」そつと箱を開けてやり白い包み紙をはずしてやる。ヒロは小さな口を開けてキャラメルを口にふくんだ。そしてにこりと笑う。

病気になる前はこの子だつてキャラメルどころか大きい飴玉を歯でがりがりと噛んで食べてしまつ子だつた。「あめやキャラメルといつものは舐めて溶かすものよ。噛んで食べると虫歯になっちゃうよー」と佐和子は何度注意したかわからない。ポテトチップスが大好きでほっておくといぐらでも食べる。この部屋にも何袋か用意してはいるがまだ欲しがらない。まあ、いい。

佐和子もヨーグルトキャラメルを口にふくんだ。ヒロの笑顔が大きくなつた。

「おかあさん、おいしい?」

「うん」

「おかあさん、いひちきて」

「紙と鉛筆ある?」

「あるわよ」

「もつてきて」

佐和子は何でもヒロのこいつとおりにするつもりだ。あれをこいつ

る、これを早くしろとかはもう言わない。小言も言わない。

急いで画用紙をとつてきてやり、鉛筆、それから言われてないがクレヨンももつてきてやつた。

「クレヨンは使わないよ」

「あ、そう?」

ヒロが起き上がるうとしたので、佐和子は驚いた。こつものよう

に身体を横に向けて絵をかいたりするかと思つたのに。大丈夫かと背中を添えてゆつくりと上体をおこしてやつた。それからベッドも操作して背中に沿つよつにしてやる。パジャマ越しに見える背骨の骨がじつじつして痛まし。

ベッドテーブルを取り出して大きな画用紙を置いてやつた。また恐竜の絵を描くのかな？佐和子は息子の絵の才能を高くかつていた。5歳の子供にしてはオリジナルティのある迫力のある恐竜の絵を描くからだ。だが、息子は何か文字を書こうとしている。

「おかあさんは見ちゃ、だめ」

「えー そうなの？」

「おしつこにでもいつておいで」

ヒロがそんなことをいつのは初めてだ。佐和子はくすくす笑いながらトイレにたつた。

手洗いをすませてトイレの戻を細めにあけて「入つてもいいですか」と聞いた。

ヒロは笑いを含んだ声で「いいですよ」といつ。張りのない小さな声。病気になる前はこの子も大きな声でひつきりなしにしゃべつていてうるさい！少しほは静かにしてつ！と何度も怒つたことか。考えないよつにしようつと思つてもついてしまつ。

ヒロはもうベッドにもたれて窓に顔を向けている。窓開けてと言われるよりも前に佐和子は窓のカーテンを開けてやつた。今日は空が綺麗でところどころ刷毛ではいたように白い雲が薄くかかっている。富士が本物の富士山のように綺麗だつた。桜がほころんだのかといふひいろ日にピンクのもやがかかつていて。

「おかあさん、これお手紙だよ。ヒロからお手紙がきたよ」

佐和子は心が浮きだつて武骨に折りたたまれた画用紙をゆつくり開く。開きながら歌つた。

「白ヤギさんから手紙がきて、黒ヤギさんたら食べちゃつて・・・

「おかあさん、歌がめちゃくちゃへんだよ」

ヒロは笑顔だつた。

8つ切りの画用紙の真ん中に縦書きに文字が書いてある。

「おかさんらすき」

ヒロはやつとひらがながかけたころで読みにくい。だが自分から文字を書いたのは初めてではないだろうか。「か」と「ら」の文字が反転して鏡文字になっていた。「ん」の字もなぜか上下さかさまである。からうじて読める歪んで力のない文字だったが佐和子はうれしかった。ヒロはいつのまにかベッドの背もたれにもたれている。もうしんぐくなつたのかと思いベッドを平らになおした。ヒロは横になつたまま佐和子の顔をじっと見てている。佐和子も微笑した。

「ねえ、おかさんらすき、つてなに?」

「おかあさん・・・

「ん?」

「ぼく、おかあさん、だいすきつてかいたの!」

佐和子は書かれた文字をもう一度よく見た。確かに「おかさんらすき」と書いてある。おかあさんだいすき!だ。

「ヒロ、ありがとう!」

ヒロはもう寝ていた。佐和子ははつとした。来るべき時がきてしまつたのだ・・・。

ヒロの顔はやすらかで少し微笑んでいた。佐和子はヒロの頬に自分の頬を寄せた。そして自分の腕をまわしヒロの肩を抱いてやる。そしてヒロのベッドに入り2人で寄り添つて寝た。

佐和子はいつまでもいつまでもそうしていた。暖かかったヒロの体温が下がつていぐ。

・・・春がもう来てしまつたのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3054q/>

---

春がきた

2011年3月22日22時25分発行